

	編集/コンビニの会事務局 連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431 TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)
	障害をもつ人たちの地域生活を支援する 特定非営利活動法人 コンビニの会 定価/150円 昭和54年8月1日第三種郵便物承認
<hr/> 第129号 <hr/>	



カラパタールから望むエベレスト

世界一の頂きを目指して

自然写真家 河嶋 秀直

昔、ネパールをエベレスト(ネパール名・サガルマータ)が見たいという思いだけで、3か月間ほど旅をしたことがある。ネパールは、北側にヒマラヤ(ネパール語で「神々の座」という意味)が連なる小さな国でした。

山登りでなく、山の傍を歩くトレッキングもでき、地図なども用意されている。エベレストに向かう通称「エベレスト街道」は、人気のコースで、僕も十二日間掛けてエベレストの展望台と言われるカラパタール(標高五五四五m)まで歩いた。

そして、カラパタールから望んだ世界一の頂きは想像を超える神々しい姿をしていた。

途中の村には泊まる処があり、食事も出してくれるので、身の回りの物だけ持って行けば、登山の経験が無くても歩いていける。

僕は、トレッキングの途中、空の色が場所により違うのを実感した。標高が高くなるにつれ、空の蒼さが濃くなっていくのに気がつき、エベレストの上に広がる空は漆黒の蒼に近い色だった。

(次頁へ)

ネパールは王国だったが、今は民主主義に替わっている。経済も発展し、一時カトマンズの街がスモッグで霞んでいた時期もあった。

数年前には、二度にわたる大地震がカトマンズを襲い大きな被害を出した。

真面目なネパール人の事、少しずつ復興はしているが、思った以上に被害が大きい。

少しでも、早い復興を願うばかりだ。

子どもたちの写真を何枚か撮らせて貰ったが、好奇心旺盛そうな澄んだ綺麗な瞳をしていた子どもが多かったのが印象的。

いろんな国の子どもたちを見てきた。

子どもたちの瞳は、その国の心の豊かさを表している、そんな気がする。



ネパールの少女



旅立ちの春

現在中学3年の娘は、行事が来るたびに「中学校生活最後の〇〇」とついてまわる。段々と自立してきた分、普段娘の姿をしっかりと見つめる機会も減ってきていて、もうこうして様々な行事を見ることができるようのも最後ののだと、親としても少し淋しさを覚えてる。

先日、運動が得意な娘にとって特別な行事である「体育祭」の10日程前に、娘は運の悪いことに足にケガをしてしまい、1週間程まともに歩くこともできなくなってしまった。最初は捻挫くらいですぐに治ると思っていたが、受診すると、「骨へのダメージがあるかも」と言われ、思わず二人で顔を見合わせた。娘は女子の中で一番きつい800M走の競技に出場予定だったので、ちゃんと走ることができるか親子ともどもとても不安な中、当日を迎え、私はドキドキしながら保護者の観覧席に向かった。

スタート直後、かなりのスピードで飛び出した1年生の子のペースに惑わされず、序盤は抑え目に走り、最終週の鐘がなるとギアを上げ、結果はケガを全く感じさせない圧巻の1位であった。ゴールした瞬間、嬉しさというよりはほっとして涙が出そうになった。

この日、小さな頃から知っている同級生の子達の立派に成長した姿を見ながら、子育ての1つの区切りを迎えているのだと感じた。特に娘は夢を追って、県外の高校へ進学を希望しているので、中学卒業と同時に親元を離れての暮らしとなる予定であり、「巣立ち」の時が近づいている。

(会報委員 鈴木 奏子)

最近のできごと

理事長 大川 美知子

『暖かい贈り物』

今から10年ほど前に家事ボランティアとして活動して下さった石井さんと言う方からお電話があり、「毛糸でネックウオーマーを編んだから取りに来て！」との嬉しい知らせがありました。数日後に30数枚の暖かい

プレゼントを受け取り、そ

れぞれが好きな色を選んで

首に巻き写真を撮りました

ので、最後のページをご覧

ください。

今年、85歳になられた石井さんは私のご近

所さん。

ちよつとした立ち話で、コンビニハウスのお

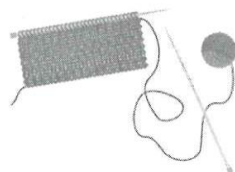
掃除ボランティアを引き受けて下さり、多い

時は毎月2回も中村区から中小田井まで駆

けつけて下さいました。いつもご主人と仲良

くウオーキングされる姿を拝見していまし

たが、数年前にご主人が亡くなられ、最近は



遠くへの外出もままならなくなつたとのこ
とです。

「私、姑の介護を9年もやっていたから、障
害のある方々のお母さんを助けたいの。人間
は助け合って生きなきゃ・・・」が口癖の石
井さん、どうも有難うございました。



『お喋りしながら手際良く』

皆さんにお届けしている会報の発送作業

も実は主婦のボランティアさんに依って支

えられています。石井さん同様、会報発送ホ

ラさん達も以前は掃除ボランティアとして

コンビニハウスを応援して下さいました方々で

す。

1回の発送作業で1600通の会報誌を

手際よく仕分けて下さるベテラン揃いです

が、お喋りしながらとても楽しそうに作業を

して下さい大いに助かっています。

150名を越える学生や主婦のボランテ

ィアが集まり、役割分担してコンビニハウス

を支える活動がエゼル福祉会の始まりでし

た。もう、20数年も前のことです。

その後、福祉制度が徐々に整えられ職員数が

増える中でボランティアさんの活動範囲は

小さくなって行きました。逆に言えば、あの

当時のコンビニハウスは本来有償でやるべ

き支援までも無報酬のボランティア活動に

頼っていたのだと思います。あの時代、善意

の人達が良くあんなに大勢集まったものだ

と思いますし、社会の空

気が今とは少し違ってい

たように感じます。



「哀しいお知らせ」

障害のある人の多くが母親の介助に頼っ

て命をつないでいる現実の厳しさ。その深刻

さを何とか解決しようとして始まったレス

バイト支援がエゼル福祉会の原点です。この

ボランティアに依るレスバイト支援が実現

したのは、二つの条件が整ったからだと思っ

ています。一つは先にご紹介したように多く

の学生さんや主婦のボランティアさんが集

まって暮らし助け合いの活動に参加して下

さったこと。もう一つは拠点となる一軒の家

を無償で貸して下さいた大家さんがおられた

ことです。

無償で私たちに最初の拠点を貸して下さい。戸崎さんが去る10月26日に亡くなられました。

30坪ほどの敷地に建てられた2階建ての一軒家に、障害のある人達が入替わり立ち代り泊りにやって来て、ボランティアと一晩を過ごす経験は本当に貴重だったと思います。その貴重な経験が10年後、20年後の自立生活やグループホームでの暮らしに繋がって行ったのです。

山歩きが趣味で、野山の植物や蝶の知識にも長けた方でしたから、美しい蝶の写真でもつと会報の表紙を飾って下さいました。読者

の皆様の中には戸崎さんの写真をご覧になられた方も多いかと思えます。また、お料理が得意だった戸崎さんには料理作りのボランティアとしても活躍して貰いました。

15周年を迎えた時に、「戸崎さんがおられなかったらエゼル福祉会は産まれませんでしたよ」とお礼を申し上げると、「コンビニハスに集まった人たちのエネルギーはすごかったから僕が家を貸さなくても、何かを作ったと思うよ」と答えておられました。

数えきれないほど沢山の働きをして下さった戸崎さんに何のお返しもできないまま、お別れの時を迎えてしまいました。

戸崎さんを始め、社会が温かいものになるとを願ってコンビニハウスで活躍して下さった方々の思いに代えて行かなくてはと思います。



戸崎さん撮影の蝶の写真 (会報 64 号掲載)

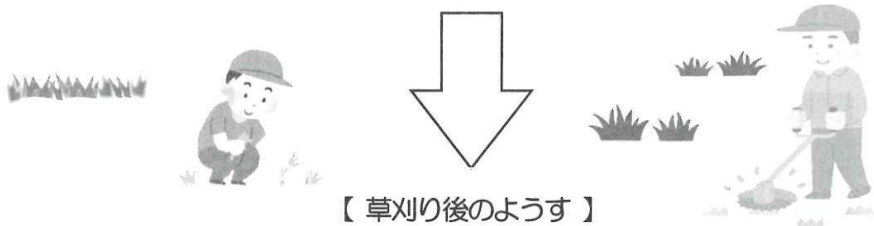
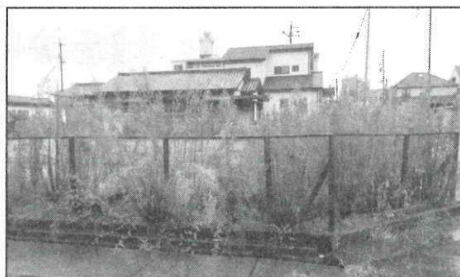
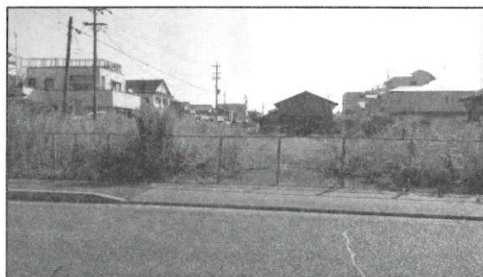
新施設第2WILL（仮称）ご報告 ～土地取得からその後～

新施設の土地を確保した以降、西区役所区政部より空地の除草依頼の通知を受けました。写真のとおり、草が伸び放題になっていたためです。

外注で、草刈りを依頼することになりましたが、費用が60,000円弱の価格となるため、職員はじめ親御さんやボランティアの方のご協力をいただき、総勢19名で草刈りを行いました。作業に参加した皆が、新施設が建つ構想を描きながら、作業に参加していました。草刈り後のすっきりとした土地を見渡し、一人ひとりが施設建設に携わっている。という思いを改めて実感しました。その思いは、皆の大きな収穫に繋がっています。

<草刈りに掛かった費用：31,598円（ゴミ袋・草除けシート、備品の購入）>

【草刈り前のようす】



【草刈り後のようす】



職員のつづやき

生活支援部の2名の職員より、それぞれが今置かれている立場での思いを綴っています。

くことが出来るようになりました。

そんな3年目の9月、お世話になってきた

先輩職員の大野さんが産休に入られました。

大野さんは先を見越して丁寧な指導をして

くれ、私の苦手なこと・疑問に思うことに一

緒に向き合ってくれる方でした。心配性の私

の性格を熟知し、何度声を掛けていただいた

かわかりません。

ちょうど大野さんが産休に入られた頃、私

たち女性職員は新たな支援を始めようとして

いました。それは、親元を離れて、ヘルパー

を利用した一人暮らしを希望される方の支

援です。

大野さんに頼ることが多かった私は、大野

さんがいない今、そうした自立生活支援を実

現していけるのか大きな不安を感じていま

ました。夜勤が増えたことでの体の負担や、持

ち前のマイナス思考が重なり、塞ぎこんでい

た時期もありました。

そんなとき、久しぶりに先輩職員と一緒に

支援に入る機会があり、頼もしくなった先輩

職員の姿を目の当たりにしました。“この人

たちと一緒に頑張っていけばいいんだ”とホ

ッとしたのと同時に、一人で不安を抱え込ん

でいた自分に気が付きました。

そんな先輩職員を育ててくれたのも大野

さんです。休みに入られても尚、私を支えて

くれる大野さんの存在に改めて感謝しまし

た。私にとって先輩職員は年齢もあまり変わ

らず、指導するとい

うよりも、一緒に

育っていく存在とい

うのが正直な気持ち

です。

● 生活支援部 伊藤沙樹 ●

今年度、職員として3年目を迎えました。

『3年目はしんどい時期』だと、職場の方や、

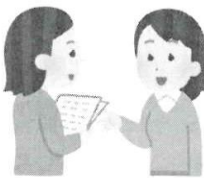
大学時代の先輩から話を聞いていました。

しかし、考えすぎると自分自身を責めてし

まう性格の私は、その時期をどうに越え、む

しろ3年目の今の方が、ゆっくりでも自分の

ペースで確実に進んでいこうと、肩の力を抜



しかし、私も大野さんのように、後輩職員を育てられる先輩にならなければいけないと強く感じるようになってきました。まずは、自分の伝えたいことに根拠を持って説明が出来るように、丁寧な介助を心がけ、自身の思いや技術を確立させていきたいです。

女性の先輩職員が少ないなか、私たち若い職員の悩みや失敗は先輩たちの負担に直結します。職員一人ひとりが、ある程度の知識を持ち、自分自身で考え行動していける力が求められているように感じます。

私自身、専門性の無さを痛感することが増えてきたので、苦手なこと、考え方の癖を自覚し、勉強に励んでいきたいです。時間はかかるかもしれませんが、私たちには、苦手なことや失敗と向き合い、克服していく力があるのだと思えるようになりました。

● 生活支援部 木村 恵利加 ●

今年で入職9年目を迎えました。

昨年9月に二度目の

育児休暇から復帰しました。

4歳と2歳になる子どもは、

ウルトラマンが好きな兄と、

拙い口調ながらお喋りな妹で、今が可愛い盛りです。

りです。

仕事と育児、どちらにもストレスを感じて

しまう場面はありますが、片方のストレスを、

もう一方の場で癒してもらうことがあり、自

分にとって二つの居場所はかけがえのない

ものとなっています。

産休前は単独で支援することが多いホー

ムヘルプ部門に携わっていましたが、子ども

のことで勤務変更をお願いすることもある

為、今年の4月から、複数体制で支援を行う



グループホーム部門へ異動し、同時に副主任という役割も担うことになりました。

その頃の私は、副主任という立場から“しっかりしなくては”と肩に力が入り、こういう支援を目指したい、だから周りにもこうしてほしい！という気持ちが強くなってしまっていました。

グループホームには、子育てや他職種で社会経験を積んでこられたベテランのヘルパーさんたちが大勢いらつしやいます。その方たちからすれば、ホームでの支援経験に乏しい私が異動してきただけでも戸惑いがある中、お互いに思っていることを十分に伝え合えなかったなかで私の思いを空回りさせ、働きづらい環境をつくってしまっていたと思います。

それからしばらくして、ヘルパーさんたち

から、「こうしたことが嫌でした」、「こんな
場面で困りました」とはつきり言って頂き、
自分が支援の考え方について頑なになっ
ていたことや、主任としてのプレッシャーの中
で焦っていたことに気付きました。

また、複数の入居者と多くの支援者が日々
交錯するなかで、この支援が正しい、その支
援は間違っていると一概に決め付けられる
ものではないとも思うようになりました。

入居者への安全安心への配慮や、相手の思
い、願いへの関心など、支援の軸となる要素
は一致していなければいけません、一見す
るとその関わり方はよくないのではと思え
る言い方、やり方にも、あ
る場面では思いも寄らぬ良
さがあったりすることを感
じました。



例えば、丁寧に聞き続けることが、ある場
面では相手を追い詰めてしまっていたり、逆
に少しぶつきたらぼうに思えても、相手にとっ
ては気が楽だったりするなど、様々な場面で
見られました。ただし、同じ関わり方をして
みても、大切にしている価値観や相手との関
係性の違いで、感じ方はきつと変わるのだと
思います。

そうしたことも意識して、入居者とヘル
パーさんの関係性、それぞれの強みや弱みを
理解していきたくと考えていますが、半年
経った今でも答えはなかなか見つけられま
せん。

私自身が日々の実践現場で悩む中、ヘル
パーさんにどう伝えてよいか悩みます。ヘル
パーさんは皆さん年上の方なので、どう意見
したらいいか、お互いがわかりやすいものさ

しは何かないかなど、話して悩んで、また話
す日々です。

ヘルパーの皆さんは、しっかりと助言して
くださる方はかりなので、私自身からも悩み
や、取り組んでみたいことを積極的に発信し、
入居されている障害のある方が求めている
生活支援を、一緒にかたちにしていきたいで
す。私の性格上、視野が狭くなりがちなので、
同僚の視点を盗みながら、考え方を柔らかく
することも意識していきたくと思います。



《活動状況》	
9月	10月
1日 事業所連絡会会議 (榑原)	1日 ヘルパー学習会
3日 ヘルパー学習会	1日 赤城町運動会 (寺沢・佐藤)
5日 栄養士研修 (曾我・桑名)	2日 相談支援初任者研修 (坪内)
11日 実務者研修 (峯)	4日 事業所連絡会会議 (榑原)
11日 相談支援初任者研修 (坪内)	5日 会報会議
15日 コピコンス災害備蓄入れ替え (事務)	7.8.20日 サービス管理責任者研修 (渥美・大西)
18日 WILL 祝日開所	8日 西区民祭り (WILL 開所)
20日 会報発送	12.13日 利用者部会 (有満)
21日 法人監査	13日 コミュニケーション研修 (佐藤・山下)
21日 WILL 日帰り旅行 大山	24日 ケアマネジメント研修 (有満)
22日 世話人研修 (渥美)	24日 会計研修 (野村)
26日 理事会	26日 親の会
28日 WILL 親の会	31日 WILL 健康診断
28日 強度行動研修 (馬淵・峯・浅野・満田)	
28日 社会福祉充実計画研修 (大川・溝口)	
29日 WILL 日帰り旅行 南知多ビーチランド	



「お餅つき大会」ボランティアさん募集しています。



2018年の新年に、「お餅つき大会」を開催いたします
利用者みなさんと一緒に楽しく過ごしませんか。



日時 2018年1月8日(月・祝日)

場所 エゼル福祉会 通所部 WILL

名古屋市西区赤城町146(名鉄・地下鉄 上小田井駅下車東へ徒歩10分)

〈手伝ってほしいこと〉

- ・道具の準備や設営、おもちつき、おもちを丸めたりする作業。
- メインヘルパーの介助補佐等。



参加申し込みは、エゼル福祉会本部までお願いします。
連絡先：電話/FAX 052-505-6082



事務局コーナー

「ご協力ありがとうございました」

9月～10月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

永田 雅敏

アイ

トクメイ

★ 物品寄付をいただいた方々

(エゼル福祉会)

GTソリューション(株)

山田 智子

(コンビニハウス)

伊藤 夢子

宮川 優子

(WILL)

奥村 信子	早川 佳乃
伊納 尚男	塩沢 しのか
丹羽 恵子	高田 真由美
小林 良生	竹内 まりや
石井 好文	榊原 まどか
梅村 勝	井上 祐子

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

大森 信	石原正寅	水野裕哉
辻本道子	桑原諸彰	黒田隆広
林 和子	高塚朱美	藤本菜見
堀 浩二	曾我直子	大瀧宥乃
楠村ゆき	石原まち	水谷友香
寺西 剛	星野恭兵	勝野観月
辻本有沙	辻本沙利菜	藤本由紀子
青木政治	酒井まみ子	茂手木利典
奥村 修	寺田みどり	

(WILL)

武部 文	須田たみ子
伊藤 篤志	吉田 恵美 富田里依

★ 会報発送ボランティア

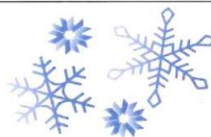
佐藤美紀子 半田素子

吉田嘉子





暖かい贈り物



ネックウォーマーありがとうございます！



◇◇◇ コンビニハウス 15周年の時の戸崎さん (写真右) ◇◇◇



銀行口座

三菱東京UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

郵便振替口座 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。〒452-0822 名古屋市中区中小田井 2-431

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail convini@beach.ocn.ne.jp

コンビニの会

理事 宮川 優子